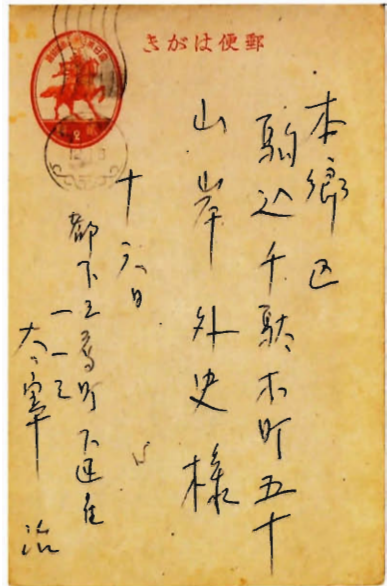


昭和18年(1943年)12月16日(日にち直筆、消印)

拝復。は招待 ありがたく
 申し申 上候。二十三日、
 正午、東京驛へ、二等
 待合室に、大座 参上可仕
 候。 敬具。
 小生も心掛可申候。

あ、酒は持参なうほ、おはよろしく、
 ちほよろしく、



拜復。御招待ありがたく御礼申上候。二十三日、正午、東
 京駅一、二等待合室に、必ず参上可仕候。 敬具。
 お酒御持参ならば、なほよろしく、小生も心掛可申候。

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様
 十六日 都下三鷹町下連雀一三 大宰治

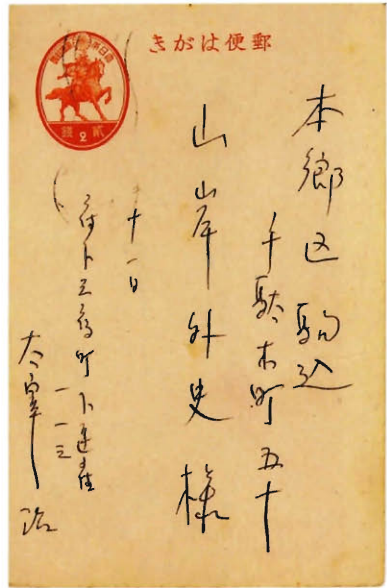
【校異】

拜復〔全集〕 → 拜復。

(改行) 敬具。〔全集〕 → (改行なし)

年月不詳、11日〔日にち直筆〕

折復。(感冒旅行は用だ。ウカヒがイヤです。おは。九日から五日間ばかり。復達みまし。もうこのです)
 そちららこそ。如何かと。少しは丸にふつて
 戻りまし。今日の日。け年々間に。振り
 (要) 戦苦闘の。の様子を伺ひ。か(つて
 う女心に似て。池のを。交じりました。実には
 苦闘の有様。この一葉のおいがキから。白い
 湯気が立ち目升るくら。おに。如実に。感ぜら
 れました。フことしは。やるぞ。と見も言ひ
 私も。感じ。酒杯をカチリと。合せました。か
 い。どとなると。車力な。ので。ウンザリ。致し
 ます。私も。驥尾に。附いて。そろそろ。は。し
 める。つ。より。です。から。どうか。投げ。おに。愛。けて
 下さ。い。全く。楽。ぢや。ない。どうか。お。願。い。を。願。ひ。ま。す。お。願。い。を。願。ひ。ま。す。



拝復。

そちらこそ如何かと、少し気になつて居りましたが、今日の御手簡に抛り、悪戦苦闘の御様子伺ひ、かへつて安心に似たものを感じました。実に御苦闘の有様、この一葉のおハガキから白い湯気が立ち昇るくらゐに如実に感ぜられました。「ことしは、やるぞ」と兄も言ひ、私も応じ、酒杯をカチリと合せましたが、いざとなると、車力なので、ウンザリ致します。私も騏尾に附してそろそろはじめるつもりです。どうか投げずに続けて下さい。全く、楽ぢやない。どうか、お願ひ致します。

不乙

(感冒流行、御用心。ウガヒがいいやうです。私は、九日から五日間ばかり寝込みました。もういいのです)

【校異】

年月日不詳〔全集〕 → 年月不詳、11日〔フート〕参照

拝復〔全集〕 → 拝復。

非力〔全集〕 → 車力

騏尾〔全集〕 → 騏尾

不乙。〔全集〕 → 不乙

(脱文。「不乙。」の後〔全集〕 → (感冒流行、御用心。ウガヒがいいやうです。私は、九日から五日間ばかり寝込みました。もういいのです)

【フート】

年月不詳——全集ではこの書簡は「年月日不詳」とし、昭和十六年の末尾に置かれているが、年は不明。

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様

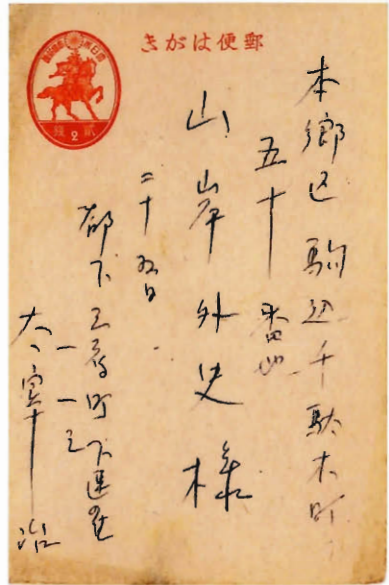
十一日 府下三雁町下連雀一一三 太宰治

年不詳、12月25日〔月推定、日にち直筆〕

押信。昨日は、おからが具合の
 わるゝのに引つぱり出して、かへ
 つてちちさるゝになつてしまつて、
 根すみませんでした。何卒
 お内へもよろしくちちの聲の
 ほごち願ひ致します。

末筆。おから、よいち越年、
 お祈り申し上げます。

敬具。



拜啓。昨日は、おからだ具合のわるいのに引っぱり出して、かへつて御ちさうになつてしまつて、相すみませんでした。何卒、お内へもよろしく御鳳声のほど御願ひ致します。末筆ながら、よい御越年、お祈り申し上げます。 敬具。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様
二十五日 都下三鷹町下連雀一一三 太宰治

【校異】

年月日不詳〔全集〕 → 年不詳、12月25日〔ノート〕参照

拜啓〔全集〕 → 拜啓。

御ちせうに〔全集〕 → 御ちさうに

何卒〔全集〕 → 何卒、

お願ひ致します。〔全集〕 → 御願ひ致します。

(改行) 敬具。〔全集〕 → (改行なし)

【ノート】

年不詳——全集ではこの書簡は「年月日不詳」とし、昭和十八年の末尾に置かれているが、年は不明。ただし、発信地の住所が「都下」とあることから、昭和十八年七月一日の東京都制の発足以降

である。